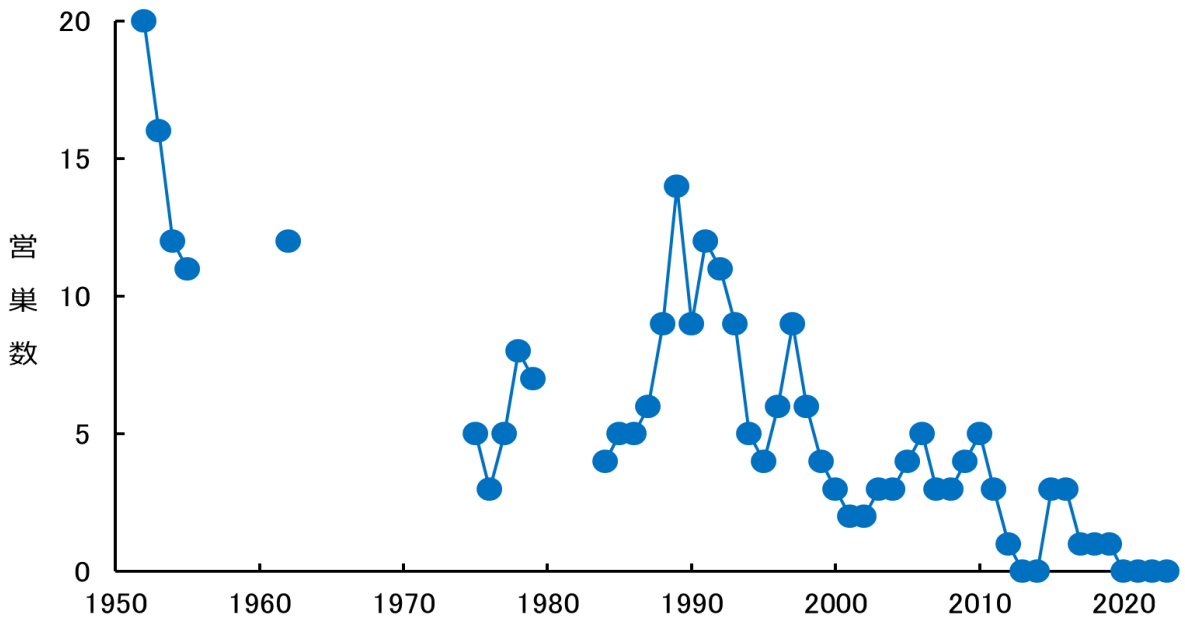


1 チョウゲンボウの営巣状況

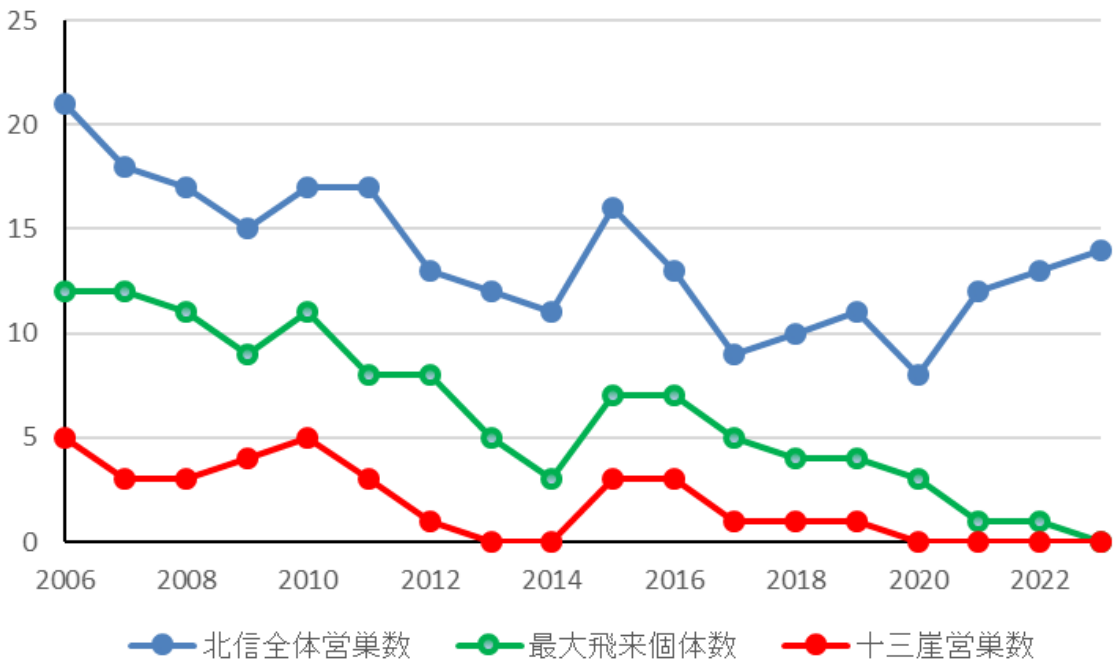


○2023年の営巣はなし（4年連続）

2 国庫補助事業 天然記念物再生事業 モニタリング調査

○減少理由

- ・崖面の植物繁茂による巣穴の減少
- ・餌場の減少（周辺の水田・リンゴ果樹園の減少）
- ・ハヤブサの定着（2010年より）
- ・地域個体群の減少（長野～飯山：近年は増加傾向）



○集団営巣形成要因

- ・ 集団化による警戒時間の減少
- ・ 越冬により南下し遅く帰還する若齢成鳥の営巣地
⇒GPS追跡調査

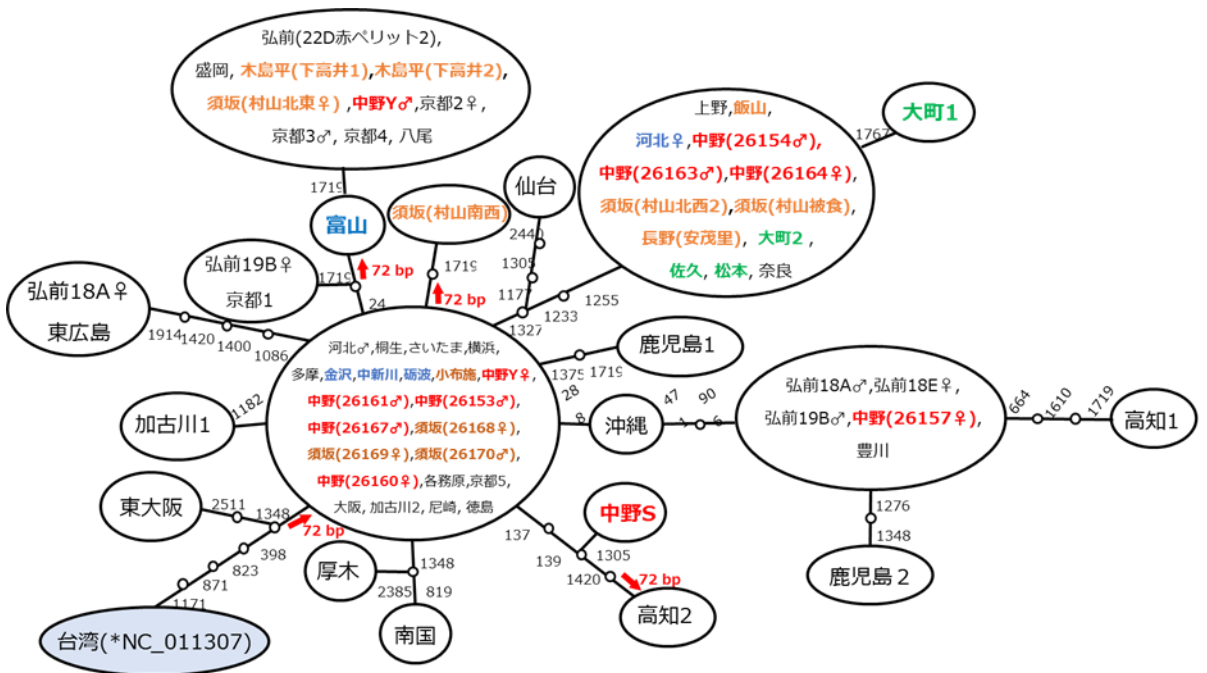
○再生のための施業

- ・ 巣穴確保⇒崖下の草刈り（委託業務）
- ・ 餌場の拡大⇒農地のエコアップ
- ・ 地域個体群増加⇒巣箱設置（工事発注）

3 国庫補助事業 天然記念物再生事業 個体交流範囲解析

○DNAによる分析結果

- ・ 個体交流範囲は主に北信地方（長野～飯山）
- ・ 地域個体群減少による遺伝的多様性の減少
⇒ハプロタイプは少ないが危険性なし（日本に来たのは5万年前）
- ・ 地域個体群減少による近交弱勢⇒危険性なし
- ・ 中野から近畿地方への移動・定着を確認
- ・ 集団営巣地は少なくとも4系統の母系あり



4 クラウドファンディング型ふるさと納税

○別紙